

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170500987		
法人名	有限会社 シルバーバック		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	札幌市清田区真栄 1 条 2 丁目 2 番 2 8 号 (電 話) 0 1 1 - 8 8 8 - 8 4 8 0		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年4月22日

【情報提供票より】 (22年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000~40,000円		光熱水費19,000円	
			暖房費(11~3月) 5,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,150 円	

(4) 利用者の概要 (1月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名			
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名			
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	82.4 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ファミリークリニック、美しが丘整形外科、ラビット歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

店舗改修型の利点を生かした住環境の良いホームです。2階へ上がる階段は広く、昇降を通した生活リハビリとなって利用者の身体機能の維持に繋がっています。緊密な往診医との連携は、利用者のホームでの生活を医療面からバックアップしています。管理者・職員の利用者本位のケア実践にける意気込みは全ての職員で開かれる定期会議、意欲的に取り組まれている内部研修にも表れています。地域住民の方々や様々なボランティアの協力をいただきながら、厚い人員体制で良質のケアを提供しているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で取り組みが期待された災害対策の項目については、運営推進会議において地域との連携強化が図られ改善されています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるための勉強会を開き、職員それぞれが意欲的に自己評価に取り組んでいます。評価結果は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者・家族・町内会役員・ボランティア・地域包括センター職員・ホーム職員を構成員とした会議では、ホームの活動報告だけでなく、自己評価の取り組み状況や外部評価の改善項目を報告し、出席委員から意見を聞いています。ホーム行事の実行委を立ち上げたり、災害時の協力方法を相談するなど、サービス向上に活かしています。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族来訪時や運営推進会議で、家族が要望や意見を気軽に表出できる関係を築いています。出された意見や要望はミーティングで話し合い、要望に応じた方策を講じてホーム運営に反映しています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、町内会行事(新年会・花植え・七夕・運動会・親睦会等)に参加したり、ホーム行事の実行委員会を地域住民の方々やボランティアが担当するなど、地域との良好な関係を築いています。地域ボランティアの日常的な訪問(大正琴・調理・傾聴・高校ボランティア局等)や近隣住民の方々との交流も活発で、地域に溶け込んだホーム運営が実践されています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続を支援するホーム独自の役割りを盛り込んだ理念を作成し、地域密着型サービスとして柔軟な支援を展開しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は日々の申し送りやミーティングなどで理念を確認し合い、理念に沿ったサービス提供に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会行事（新年会・花植え・七夕・運動会・親睦会等）に参加したり、ホーム行事の実行委員会を地域の方々やボランティアが担当するなど、地域との良好な関係を築いています。地域ボランティアの日常的な訪問（大正琴・調理・傾聴・高校ボランティア局等）や近隣住民の方々との交流も活発で、地域に溶け込んだホーム運営が実践されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるための勉強会を開き、職員それぞれが意欲的に自己評価に取り組んでいます。評価結果は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・町内会役員・ボランティア・地域包括センター職員・ホーム職員を構成員とした会議では、ホームの活動報告だけでなく、自己評価の取り組み状況や外部評価の改善項目を報告し、出席委員から意見を聞いています。ホーム行事の実行委を立ち上げたり、災害時の協力方法を相談するなど、サービス向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは必要書類の提出・報告等、窓口で相談する機会があります。運営推進会議以外でも意見交換したり、連携強化を図れるよう今後一層取り組む予定です。	○	区の管理者会で立ち上げたサポネットワークの講演会に市担当者の参加を呼びかけ、ともにサービスの質の向上に向けて研修を重ねていく予定です。実現に期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時の報告に加えて、毎月通信に個人別の状況を添えて利用者の暮らしぶりを伝えていきます。金銭出納状況は送付して明確に報告しています。身体状況に変化があれば随時、電話連絡するなど丁寧な情報提供を図っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や運営推進会議で、家族が要望や意見を気軽に表出できる関係を築いています。出された意見や要望はミーティングで話し合い、要望に応じた方策を講じてホーム運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員によるケアの重要性を十分理解しており、雇用条件の整備、福利厚生を拡充など、離職を最少限に抑える努力をしています。新規職員採用時には、十分な期間をとって利用者や馴染みの関係が出来てからケアに当たるよう指導し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年間計画を立てて段階に応じた外部研修への参加を促し、シフト調整や研修費補助など職員のスキルアップを積極的にバックアップしています。職員の自発的な研修参加も勤務扱いとし、研修参加へのモチベーションを高めるとともに、職員も新たな知識の修得に意欲的に取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は区の管理者連絡会で、「サポネットワーク」を立ち上げ、独自に講演会や研修会を企画・開催し、職員の交流機会を確保しています。ホーム同士の情報交換にも積極的に、相互訪問や複数ホーム参加の外出レクリエーションを開催するなど、ともにサービスの質の向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては事前に利用者・家族に来所していただいたり、管理者が訪問して十分面談し、不安のないサービス利用につなげています。必要に応じてセンター方式のアセスメントを活用し、利用開始後は家族と連携しながら、マンツーマンのケアを展開し、無理なく馴染めるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のこれまでの生活歴から、出来ることを見極め、人生経験から培われた様々な技術や生活の知恵（畑仕事や料理のコツなど）を教えていただきながら、共に楽しみ、支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で声かけし、利用者の希望や意向を常に確認する支援を実践しています。利用者の言葉や行動、表情を注意深く捉え、会議やカンファレンスで検討しながら、利用者の意向に沿った暮らしの実現に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が介護計画原案を作成した上でケアマネジャーを含めた全職員でカンファレンスを行ない、他職員の意見・アイデア、家族の要望を取り入れた具体的な介護計画を作成しています。担当者会議への家族参加については積極的な働きかけを継続しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヵ月ごとの定期見直しに加え、利用者の状況に応じてきめ細かなモニタリング・全職員でのカンファレンスが毎月実施されています。個人別記録や職員の意見、新たな気づきをもとに、現状に合った新たな介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院や買物、理美容院の同行や送迎など、利用者に応じた柔軟な支援をしています。訪問マッサージや訪問エステの利用も希望に応じて支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の内科・歯科の訪問診療、看護師による日常の健康管理など、行き届いた医療支援を展開しています。利用者・家族の希望に応じて整形外科や皮膚科など、他科の受診も支援しています。年2回の健康診断の結果や現病の状態、服薬内容、血液検査の結果等をまとめた利用者一人ひとりの医療ノートを作成し、緊急時の情報提供がスムーズに出来る工夫をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応方針を作成しており、利用開始時に家族に説明し同意を得ています。利用者に状態変化があれば、その都度、家族、職員、往診医と繰り返し話し合い、家族が納得できる方針の共有を図っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修で職員の意識向上を図ると共に、利用者の尊厳と権利を守り、誇りやプライバシーを損ねない対応に日々努めています。記録は所定の場所に保管し、目に付く場所に置かれたチェック表はイニシャル表記にするなど、個人情報保護に配慮しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペース、自己決定・自己選択を可能な限り尊重した柔軟な支援をしています。必要に応じて職員の勤務時間を利用者本位に調整するなど、きめ細かい支援を実践しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配の食材は、カタログを見ながら利用者と一緒に選んでいます。足りない食材は利用者と買物に行き、利用者の好みを反映した献立を作成して食事が楽しみなものとなるよう工夫しています。利用者の力量に応じて、調理・後片づけも共に行なっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて毎日入浴できる準備をしています。入浴を拒む場合には、温泉に出掛けるなど利用者が楽しんで入浴できる工夫をしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意分野で力を発揮したり、楽しんだりする機会を設け、達成感や喜びのある生活を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの要望に応じて、散歩、買物、外食などできるだけ戸外に出かける機会を設けています。パークゴルフやボーリング、日帰り温泉、季節毎の行事（初詣や雪祭り見学等）など、外出レクリエーションも多彩で、利用者の変化や楽しみのある生活を過ごせるように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を十分認識しており、玄関・居室は夜間を除いて施錠されていません。利用者が自由に外出できる生活、地域の方々や家族が気軽に訪れる暮らしを実践しています。		

札幌市清田区 グループホーム さくらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議では災害時の協力を要請し、避難方法などを具体的に話し合っていますが、今年度は避難訓練の実施が見送られています。	○	地域住民の方々の参加・協力をいただき、早急に避難訓練を実施することを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日あたり1500cc～2000ccの水分摂取を目途に個人別に記録し、脱水に注意しています。嚥下状態に配慮した食事形態や介助、利用者の好みを反映した野菜中心の献立で、栄養バランスにも配慮しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	店舗改修型ホームですが、生活感漂う家庭的な共用空間となるよう家具や装飾等に配慮しています。利用者が自由に冷蔵庫から飲み物を取り出したり、熱帯魚で癒される1階と、落ち着いた雰囲気のある2階には喫煙所が設けてあり、居心地よく過ごせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さが異なる居室には、利用者が使い慣れた物や好みの家具、大切な品（仏壇や神棚等）を自由に持ち込んでいます。家族と相談しながら、家具の配置を変えたり物品の整理をするなどして、利用者が落ち着いて過ごせる居室となるよう工夫しています。		

※ は、重点項目。